

トップメッセージ

コーポレートレポートの刊行も2回目となりました。世界は引き続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の脅威に晒されています。罹患された皆様、生活に支障を受けた皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。また、最前線に立つ医療関係者の皆様、エッセンシャルワーカーの皆様に、深く感謝申し上げます。いまだ先行きが不透明な社会・経済環境の中ではありますが、2020年度（2021年3月期）の企業活動および今後への展望をご報告します。

福富 正人
代表取締役社長



2020年度（2021年3月期）の総括

2020年度の市場環境は、国内・海外ともに、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済活動の制約などの影響を受け、日々、慎重な経営判断を要する展開となりました。しかしグループ丸となり着実な事業推進に取り組んだ結果、連結ベースの決算数値は、前期比で減収となるも経常利益および当期純利益は増益となりました。

2020年2月に策定した長期ビジョン「安藤ハザマVISION 2030」の掲げる「4つの価値創造」戦略のもと、刻々と変化する

る社会・経済情勢を見据え、中期経営計画「Chapter I」の各種施策を進める一方、コロナ禍において建設現場の感染防止対策を徹底することで、現場でのクラスターは発生せず、土木・建築ともに工事がおおむね順調に進捗しました。このことは、財務・非財務両面からのサステナブル経営の重要性が唱えられる現在、ステークホルダーへの責任ならびに事業継続いずれの観点からも重要な成果であったと考えます。

2020年度（2021年3月期）決算の概況

	2021年3月期 前期比	
連結売上高	3,520億円	▲6.9%
連結営業利益	273億円	+10.8%
連結経常利益	258億円	+8.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	171億円	+2.3%

中期経営計画の進捗

中期経営計画「Chapter I」は、「4つの価値創造」戦略領域に基づき、事業革新の基盤をつくとともに、ステークホルダーの皆様と価値観の共有ならびに協働を開始することを目的としています。3か年計画の初年度としてさまざまな施策に着手する一年となりました。先進技術を投入した社会インフラ構築や、低・脱炭素社会に貢献するビジネスモデルの確立、多様な人材を生かす人財戦略の推進など、皆様から高い関心と

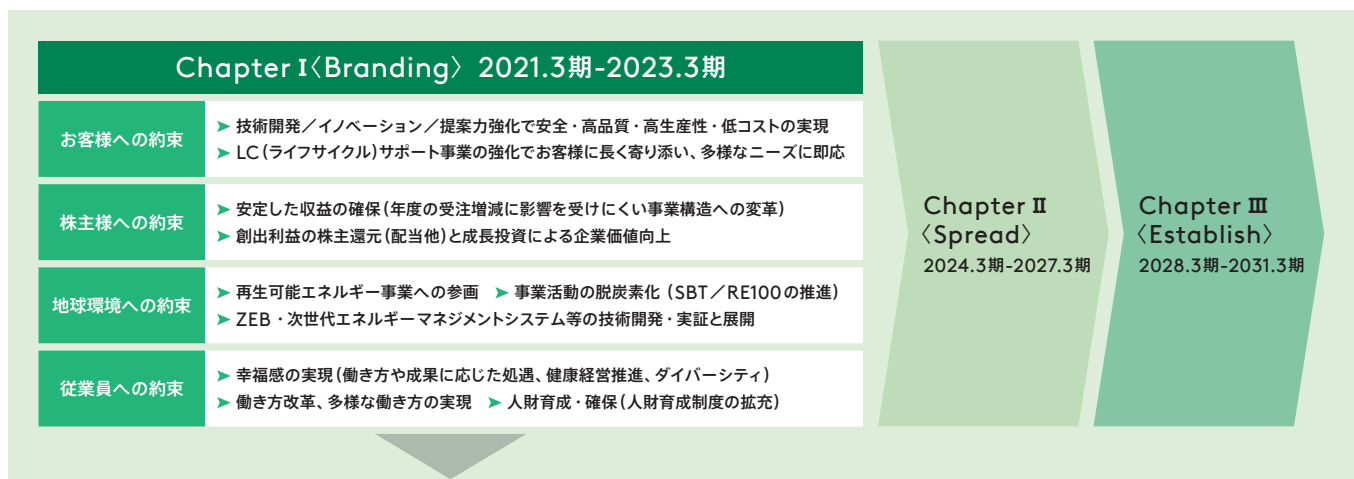
期待を頂いている施策についても、有意義な成果を挙げつつあります。それらを当レポートで実感いただければ幸いです。

目録 P13 中期経営計画 現在の注力ポイントと進捗状況

目録 P19 イノベーションフロント
Case01 持続可能な未来の実現に「建設」で貢献

目録 P21 イノベーションフロント
Case02 多国籍なチームで挑む安藤ハザマのものづくり

中期経営計画(Chapter I)の詳細



2023年3月期 連結経常利益: **300** 億円 ROE: **12**% 総還元性向: **50**%以上

中期経営計画期間 3か年(2021.3期~2023.3期)の投資計画と予実績

分野	3年間の投資計画 (当初予定)	対象	3年間現状投資見通し (2021年3月期実績)
エネルギー事業	50億円程度	▶ 再生可能エネルギー事業(国内&海外) ▶ エネルギーサービスプロバイダ事業(ESP事業)	約50億円 (少額)
不動産事業、 インフラ運営事業等	50億円程度	▶ 保有資産(支店ビル)のファシリティーマネジメント事業 ▶ 収益物件の取得	約30億円 (約17億円)
パートナー戦略投資	50億円程度	▶ 海外事業パートナーとのアライアンス ▶ スタートアップ企業との協業	約50億円 (少額)
イノベーション投資、 技術開発投資等	100億円程度	▶ 技術開発投資(生産性向上、低コスト、短工期等) ▶ 技術研究所の設備投資 ▶ PCa工場の増設(3拠点目) ▶ ベンチャーキャピタル投資(VC投資)	約120億円 (約33億円)
総額	200~300億円		約250億円 (約50億円)


2021年3月期の主な投資実績等

技術研究開発投資、新PCa工場、収益物件(都内ビジネスホテル)、VC・スタートアップ企業への投資

マテリアリティの実践

企業にとって社会・環境課題に与えるインパクトを適切に把握・最適化するサステナビリティ戦略は、今や持続的な成長を図る財務戦略と不可分です。特に2020年は国連「持続可能な開発目標(SDGs)」による「行動の10年」の本格化や、日本政府による「2050年カーボンニュートラル」宣言が象徴するように、統合経営の潮流化が一段と加速した年でした。「ウィズ・アフターコロナ」の視点も、引き続き重要です。

このような観点に立ち、当社はサステナビリティ戦略の要である3つのマテリアリティならびにCSR重要テーマを推進しました。確実なPDCAを実現するため、今年も外部有識者・専門家も交え、事業のさまざまな側面から社会・環境リスクおよび機会の継続的な特定に努めました。

 サステナビリティレポート2021 マテリアリティ1~3各章

安藤ハザマの認識している社会・環境リスクおよび機会 2020年度に重要度を高めた要素の例

事業を取り巻くリスク

非財務に対する要求の厳密化と、財務面への影響

- ▶ 「ウィズ・アフターコロナ」に対応した社会・経済の制度化
- ▶ 気候変動戦略、多様性戦略に関する開示強化要望

気候、災害による事業への影響

- ▶ 新型コロナウイルス感染症拡大による内外受注動向への影響
- ▶ 激甚型災害に対応したBCPの継続強化

インフラ需要に伴う社会要望、技術要件の高度化

- ▶ 「ニューノーマル」下でのビジネス・日常慣行に対応したインフラ設計の必要性の勃興
- ▶ 顧客からのデジタルトランスフォーメーション(DX)対応要望

労働安全環境のさらなる改善の必要性

- ▶ ウィズコロナでの安全衛生管理の強化
- ▶ 平時の健康管理への社会的関心の向上

サプライチェーン全体でのコンプライアンス、リスク管理の必要性

- ▶ 現場単位での新型コロナウイルス感染症拡大防止策の徹底
- ▶ 海外取引先も含めた人権尊重

社会に貢献し、共栄する機会

環境性能に優れた、高品質で強靱(レジリエント)な社会インフラ構築によるお客様満足の上昇と社会への貢献

- ▶ 低炭素ソリューション、省人化ソリューションなどへの、社会的期待の高まり
- ▶ ものづくりのDX化推進による、さらなる価値創造、効率化

労働安全、働き方改革の推進による、優れた人材の確保および優良な協力会社との共栄関係の構築

- ▶ 柔軟な働き方の提供による、より多様な人材獲得への機会拡大
- ▶ 多様な人材による技術革新、競争力向上

公正で誠実な事業活動、地域(コミュニティ)とのパートナーシップ(協力関係)強化による、社会との関係強化、貢献

- ▶ 調達基本方針の浸透施策を通じた、サプライチェーンでの風通しの改善

コアSDGsの設定・KPIの開示

サステナビリティ戦略の確実なPDCAに向け、もう一つの大きな柱がコアSDGsの設定です。当社はサステナビリティレポート2018でSDGsへの賛同を表明して以降、より具体的に事業特性に沿った貢献を図るための検証を進めてきました。また、マテリアリティ策定にあわせて同レポート2019で策定・公表したKPI群についても、PDCAを踏まえ、その拡充を図ってきました。これら取り組みを統合し、より包括的な戦略推進を行う経営判断を行い、このたびの公表となりました。

中期経営計画で定めた財務目標と両輪となり、当社の非財務戦略の目指す社会インパクトの尺度として、これらコアSDGsおよびKPIの進捗を発信し、ステークホルダーの皆様への説明責任の向上、ならびにより良いエンゲージメントへの視座として共有していきたいと考えています。

 P16 さらに価値創造に向け コアSDGsの設定、KPIの開示

終わりに

サステナブルな社会の実現へと一層の貢献を果たすため、企業経営の仕組みを変革し続けることは、企業の継続性・成長性に直結する経営課題として、日々、その重要性を高めています。当社はこれからも挑戦を加速します。ステークホルダーの皆様には、より一層のご理解とご支援をお願いいたします。

